

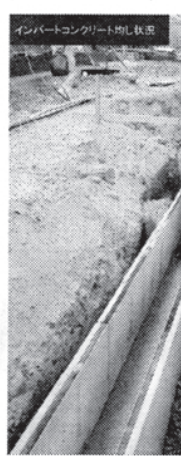
区をはじめて、積極的な普及拡大に努めていく。

軽いため取り扱いが容易で、荷役や据付けなどの作業性も向上した。

上部ブロックには蓋版がなく、下部ブロックと専用プレートでボルト固定することで、施工後のガタツキや騒音を解消割れや欠けなどの外観不良も予防する。

上部ブロックは、エプロン部に6%の片勾配を設けた「街渠型」と、6%または1%の両勾配を設けた「V型」の2種類をラインアップ。

街渠型は、主に道路側



インバートコンクリート排水口

排水する。

同社は、環境を視野に入れた新製品開発に積極的取り組み、その成果として丸形30Wソクハイをはじめ、T-25横断荷重・浅層埋設土被り5%

8-A)など多数のNETIS登録技術を擁している。セパレート側溝も現在の技術に満足することなく、今後もフィールドの声を反映させてさらなる改良・改善を加え、完成度の向上を目指す。

法と経時効果、実際に製品施工されている道路を撮影した動画を映し出し、経年効果などを発表した。道路土木業界においても注目度の高い同工業会の製品技術は、製品目地形状を変えることで雑草の成長を抑制する防草技術として初めて開発されており、従来の防草技術が不要となり環境負荷も全く無いことから参加した研究者たちの関心を集めていた。

## 「優れた着想」と高評価 東海北陸雑草研で技術発表

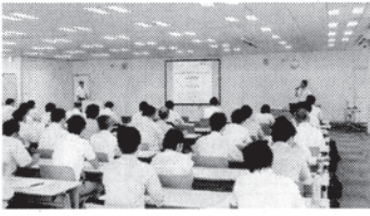
出席者は東海・北陸・関東の大学研究者や農林の試験場、技術・研究機関、企業など雑草を課題とする学会企業企業の研究関係者。同工業会の石川重規氏は、開発につながった実証研究の試験方

藤井教授は、杭周固定液と根固め液に関して、攪拌や強度発現、品質管理などの多数の研究結果をもとに解説。杭周固定液と根固め液は、粘性土を主体とするソイルセメントの一種で、密度1・4〜1・8g/cm<sup>3</sup>の流動化処理土であり、均質性は施工方法によって異なるとした。また、最終的な品質管理方法として電気比抵抗などによるモニタリング技術を紹介。室

内実験の結果を踏まえ、電気比抵抗によって若材の齢強度から材齢28日圧縮強度を予測することは可能だとしている。

出席者は東海・北陸・関東の大学研究者や農林の試験場、技術・研究機関、企業など雑草を課題とする学会企業企業の研究関係者。同工業会の石川重規氏は、開発につながった実証研究の試験方

発表後、吉岡座長は「興味深い発表で、優れた着想の雑草管理方法である。今後は防草ブロック設置箇所の調査とデータを示すことが大切」と述べた。



講習会には約80人が参加した



来年の学会本大会への展示計画

国近 省整 地交 100m<sup>3</sup>以上の構造物対象

このコンテストは03年度から実施。近畿地整発注工事、①鉄筋コンクリート擁壁（構造物高さ5m以上）②鉄筋コンクリートカルバート類（内空断面25平方m以上）③橋梁下部工④橋梁上部工⑤トンネル覆工⑥堰・水

011年3月に発生した東日本大震災では、東北地方を水道施設に未曾有の被害をもたらした。下水道において使用できなくなる事例なども発生し、その地区に住む大きな影響を及ぼした。その中でも、液状化に伴うマン

マンホール浮上抑制対策に関しては、避難所や乗降客の多い大規模なターミナル駅などと緊急輸送道路を結ぶ「アクセス

の隆起・沈下が多数発生し、管路施設が大きな被害を受けた。これを受けて、国土交通省は下水道地震対策技術検討委員会を立ち上げて、05年8月

を認め、これまでの取り組みによって「ほぼ目標を達成できた」と

は、長い目で見れば業体として取り組んで、そのような好循環を作っていく必要がある」



回覧窓